令和３年（2021年）３月12日

令和２年度（2020年度）特別支援連携協議会　概要

北海道教育庁胆振教育局義務教育指導班

令和３年（2021年）２月24日（水）に、むろらん広域センタービルを会場として、令和２年度（2020年度）特別支援連携協議会を開催しました。

本協議会では、事務局から「令和２年度（2020年度）特別支援教育の推進」について報告するとともに、「就労における引継ぎについて」は、しらおい障がい者と手をつなぐ会から、「関係機関との連携について」は、胆振圏域障がい者総合相談支援センターるぴなすから話題を提供していただいた後、各学校や地域における切れ目のない一貫した支援の充実に向けた「連携協議会メッセージ」について、協議を行いました。

連携協議会テーマ

胆振で学ぶこと、働くことに向けた切れ目のない一貫した支援の充実

話題提供「就労における引継ぎについて」

しらおい障がい者と手をつなぐ会　熊　谷　延　代　会長

白老町にある、民族共生象徴空間「ウポポイ」内にあるカフェ RIMSE（リムセ）と、ＪＲ白老駅前にある食堂（Poroni）で就労されている方からのインタビュー動画を視聴し、就労における引継ぎの重要性について話題を提供していただきました。

- ○　地域で就労し暮らしていくためには地域で支える場所、人が必要であること
- ○　地域で支える人をつなぐためには連携を行うための引継ぎが大切であること

話題提供「関係機関との連携について」

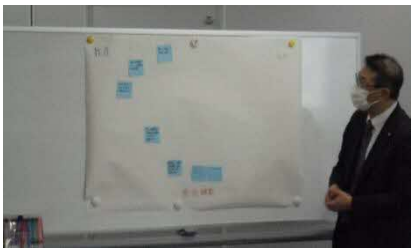
胆振圏域障がい者総合相談支援センターるぴなす　大　竹　保　彰　地域づくりコーディネーター

保健福祉側から、最近の相談支援の動向及び卒業後の生活に向けた関係機関の連携と個別の教育支援計画の活用について話題を提供していただきました。

- ○　関係機関との連携が必要な難しいケースが増えていることから、個別の教育支援計画は幼少期や学童期の状況を把握し連携する上で、欠かすことのできない重要な資料であること

協議「各学校や地域における切れ目のない一貫した支援の充実」

個別の教育支援計画の活用について、グループ協議で意見を集約し、胆振で学ぶこと、働くことに向けた、切れ目のない一貫した支援の充実を目指す「連携協議会メッセージ」をまとめました。



令和３年度（2021年度）は、関係機関との連携の一層の促進に向け連携協議会メッセージを周知していきます。

連携協議会メッセージ

個別の教育支援計画を連携のマストアイテムに

～胆振で学ぶこと、働くことに向けた切れ目のない一貫した支援の充実を目指して～